

佐賀小学校

『人間を大事に』

『自他ともに大切にすることができよう』

校長 宮地 由美

◆はじめに

今年度は、11名の新入生と転入生1名を迎え、児童数75名、学級数7(通常学級6、特別支援学級1)、教職員数14名でスタートしました。

これまで大切にしてきた連携(つながり)を意識した取組を積み重ねるべく、継続して取り組んでいます。その中でも、昨年度より高知県教育委員会より指定を受け、隣接する佐賀中学校と連携し「中山間地域における特色ある学校づくり推進事業」に取り組む、研究を進めています。

今年度は、佐賀中学校との連携をさらに進めるため、学校教育目標を中学校と同じく、『人間を大事に』『自他ともに大切にすることができよう』としました。人権・同和教育を基本に据え、9年間を通して、いじめや差別を許さない、人として

の生き方を大事に日々の授業や児童会活動、学校行事などに取り組んでいます。連携(つながり)を意識した取組の一端を紹介します。

◆保育所との連携(つながり)

一昨年より「保小連携・接続推進事業」の研究を進め、保育所との連携推進を図ってきました。今年度も、4月30日(金)には、第1回保小研修会を行いました。たくさんの参観者に見守られ、スタートカリキュラムに基づいた授業を行いました。

子どもたちの様子から、緊張しつつも保育所の先生方に見ていただける嬉しさも感じられました。授業の中では、自分の考えを表現し、友だちに伝え合う姿がたくさん見られました。保育所での学びを小学校につなげることができていることを感じる授業となりました。

また、6月17日(木)には、佐賀保育所と交流会を行いました。保育所に入る際には「ただいま」との声



聞こえました。園児との交流の中では、1年生で学んでい

ることを発表し、また、祭り太鼓を練習している園児には、手を取り、太鼓のた



たき方を教えたり、気をつけることを教えたり、優しい姿もたくさん見られました。

今後もこれまでの取組を継続し、スムーズな連携・接続の推進を図っていきます。

◆中学校との連携(つながり)

前述の通り、佐賀小中学校では、「中山間地域における特色ある学校づくり推進事業」に取り組んでいます。具体的な内容は次の4点です。

- ・ 学校運営協議会を活用し、特色ある学校づくりを推進するための体制整備
- ・ 生活科・総合的な学習の時間を柱とした9年間のカリキュラム作成および実施
- ・ 小中連携による特色ある教育課程の編成および実践
- ・ 小中連携した授業改善による、学力の定着および向上に向けた取組の推進

地域や保護者の方の声を学校教育に取り入れ、小学校と中学校が連携しながら、地域や社会のために自ら考

え行動することのできる子どもたちを育てていくことを目的に取り組んでいます。1学期は、ともに授業研究を行ったり、6年生では中学校の先生による授業を行った



たりするなど、授業における交流も行いました。

また、中学生による読み聞かせも実施しています。

子どもたちは中学生による読み聞かせを毎回楽しみにしています。中学生の姿から、「自分たちが中学生になったら…」との思いも抱いています。

今年度もさまざまな場面です。中学校との連携(つながり)した取組を推進していきます。

◆地域との連携(つながり)

今年も地域の方と保護者の方にご協力いただき、5・6年生は田植えの体験を行いました。また、地域コーディネーターにもお世話になり、畑の土づくり、運動会前の校庭の草引き、家庭科実習、読書活動の見守り、生活科や総合的な学習の時

間など、さまざまな場面です。地域の方にご協力いただいています。地域の方とふれあい、地域の方から学び、体験的、探究的な学びを通して、学びへの意欲を高めていくとともに、地域や地域の人々の役に立ちたい、貢献したいと思う子ども

を育てていきたいと考えています。今年度は地域の方とのつながりがより強くなっていると感じるとともに、子どもたちが地域に目を向け、考えることが増えていると感じています。「○○したい」という子どもたちの思いに、快くご協力いただける地域の皆さんに心より感謝しています。



地域を担う子どもたちのために、これからもさまざまな連携(つながり)を大切に、「ふるさとへの愛着と誇りを持ち、課題を見つけ解決しようとするコミュニティの一員としての自覚を持った人材」の育成に向け取り組んでいきたいと考えています。

三浦小学校
学校・家庭・地域の協働を
基盤とした教育活動を

校長 吉本 千史

◆はじめに

本年度、三浦小学校は、4月7日(水)に6名の新入生を迎え、全校児童36名、教職員12名でスタートしました。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束せず、昨年度に引き続き、三密を避けることや毎日の検温やマスク着用、こまめな手洗いや消毒などを行いながらの生活です。子どもたちにとっても、教職員にとっても、心休まる環境ではありませんが、安心、安全な生活実現のため、細心の注意を払いながら、教育活動を進めていきたいと考えています。

取組が評価され、昨年度、「三浦の子どもを育てる会」が地域学校協働活動において優れた成果を収めたとして文部科学大臣賞を受賞することができました。これからもその取組を継続しながら、学校・家庭・地域の協働を基盤とした取組を進めていきたいと考えています。

それでは、今年度の重点的な取組である授業改善となかまづくりについてご紹介します。

※Education for Sustainable Developmentの略。持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の意。

◆授業改善

学校の教育活動の中心は日々の授業です。その授業を改善していくために、今年度の研究主題を「主体的な学習活動をめざした授業づくり〜自己有用感・自尊心・自信と意欲を主体性へ〜」とし、国語科を中心として研究していくことにしました。

具体的には、授業の中で、子どもたちが主体的に活動するために、自分の思いや考えを伝え合う場を設定することや学習リーダーの育

成を図っていくことなどに取組んでいきます。また、校内の研究にとどまらず、他校の取組を学ぶことにも力を入れていきたいと考えています。1学期中に、先進的な実践をしている学校の研究発表会や公開授業などに参加し、子どもたちが主体的に学習を行っている授業のイメージをつかみ、それを自分の授業に活かしていく。そのような取組を教職員間で共有し、学校全体に広げていけたらと考えています。そして各担任が、年間1回は研究授業を行い、学びを活かしながら授業改善に取り組み、検証を重ねていきたいと思えます。その折には、西部教育事務所

の指導主事を招聘し、授業づくりの大切な視点やポイントなどを教えていただきながら

授業研究に取り組んでいくこととしていきます。

研究授業



研究授業

◆なかまづくり

学校の主人公は、あくまでも子どもです。子どもたちが、毎日安心して過ごし、楽しいと感じられる学校でなくてはなりません。そのためには、子どもたち同士のより良い人間関係づくり・なかまづくりが不可欠です。

具体的な取組としては、

あいさつ運動や縦割り班活動、児童会を中心とした集会活動など、さまざまな取組を行っています。しかし、子どもたちの生活の中で、より良い関係を築けなかったり、トラブルを起こしたり、傷ついて心が落ち込んだりするそのほとんどは、同じクラスの友だちとの間で起こっています。そのため、クラスの中で、お互いがより良い人間関係づくりについて学び合う場が必要であり、大切だと考えます。そういった意味で、今年度は、道徳の授業や人権学習に加え、ハートフル朝会に力を入れていきたいと考えています。

ハートフル朝会は、より良い人間関係をつくるためのアクティビティやソーシャルスキルを養う活動を通

して、子どもたちのコミュニケーション力を育成したり、優しく思いやりのある心を育てたりするためにしています。

これらの活動を通して、子どもたちのより良い人間関係がつけられ、全校の絆づくりが進んでいけばと思っています。

また、日ごろから子どもたちの様子や行動、人間関係などをアンテナ高く観察し、小さなことを見逃さないことも大切であると考えています。そのため、気になる児童や配慮が必要な児童がいる場合は、教職員で常に情報を共有しています。

そして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを交えて定期的に校内支援委員会を開き、課題のある児童や配慮が必要な児童について対応の在り方などを話し合い、日々の取組に活かしていきます。



ハートフル朝会